ひろよしあつこ
広吉敦子の
目黒・生活者ネットワーク
市民が育てる 東京・未来
おひさまレポート
OHISAMA REPORT 2016. 8. 1　No. 97

発行責任者/広吉敦子　〒152-0003 目黒区碑文谷6-1-19 アネックスST 1階　TEL/FAX 03-3791-8069　http://meguro.seikatsusha.net

隔たりのない地域社会へ参加するために・・・

NPO法人いきいき福祉ネットワークセンター　理事長　駒井 由起子

清掃ボランティア活動

いきいき福祉ネットワークセンターは、平成16年の高次脳機能障害者に対するボランティア活動から始まりました。当時私は作業療法士として目黒区心身障害者センターあいアイ館に勤務しておりましたが、そこで出会った交通事故による脳障害の若者に対して、何とか社会参加をして欲しいと思っていました。また、脳梗塞を発症して退院してきた50代の男性が仕事を退職したものの、何もすることがなくこのまま身体の機能訓練だけを続けていく人生でいいのかということに疑問を感じておりました。そこで日曜日に開催した、八雲や上目黒住区センターでのボランティア活動では、集まった障がいのある人たちと、渋谷へ行ったり、おいしいランチを食べに行ったり、時には手打ちうどん教室やお菓子作り教室を開催しました。

高次機能障害は出血などによって脳の細胞が傷ついてしまうために、記憶が悪くなったり、勉強や仕事に集中できない、感情や欲求がコントロールできないという、動物の中でも最も高度な機能、すなわち人間らしい部分が障がいされてしまいます。興味関心がなくなったり、自身のできる能力が客観的に把握できなくなり、意欲がなくなり自宅に閉じこもる傾向になることも多々あります。

しかし、あいアイ館の送迎バスではなく、日曜日に自分の足で歩いて、自分の力で考えて電車に乗って、同じ障がいを持つ人々と出かけたり、ランチを食べに行ったり、お菓子作りをする身体を使った体験によって、高次機能障害のある人たちは次第に自身のできる力を確信し、地域社会に積極的に出かけていくようになりました。このような地道なボランティア活動が、現在の幾つもの事業に発展し、今では自治体からの補助金によって、全国に先駆けて行っている事業がいくつかあります。

当法人では、既存の制度を使っても生活の質が向上しない人をサポートしています。人は誰でも地域社会の中で当たり前に生活したいと思っており、それは障がいを持っていても同じようにかなえられることとして、相互にサポートし合える社会が望ましいと思います。そのために考えられることは、本人が主体的に行動できること、適切なサポート方法ができること、地域社会の理解があること、この3点が障がいのある人の社会参加にとって必要であると思います。

現在行っていることはまず、本人の主体的行動の向上を目指して「高次脳機能障害と若年性認知症のためのデイサービス」、「就労訓練ができる施設」を作っています。デイサービスは介護保険制度によるものですが、病気や障がいによって退職した40代50代の人たちが、地域清掃ボランティアをしたり、自分たちで決めた場所に観光に出かけるなどして、社会参加を行っており、他の介護保険サービスとは様相が異なります。また、20代30代であれば就労をしたいと願うのは当然であり、脳の障がいを補ったり、就労時に気をつけるための練習を行う就労訓練施設があります。これは最終的には就労による社会参加を目指します。

外出活動

次に行っていることは、私たちのような支援者は脳の障がいのある人を適切にサポートできることが必要でありますが、脳についてはまだ不明なこともありその方法が一定でないのが現状です。そこで、事例検討会を行いながら、いろいろなケースに応じたサポート方法について勉強する機会を、数年医療機関や地域の保健師などと重ねております。また、当法人で長年行ってきた相談支援を普遍化する研究なども行いながら、「若年性認知症支援マニュアル」を東京都から今年度発行する予定です。

3番目に挙げている地域社会の理解については、脳の障がいは目に見えないことが多く、本人が自身の障がいに気づかないという特徴があること先述しましたが、周囲からも理解し難いことであり、地域社会に参加するためには、地域の人々が障がいを理解していることは最も大切なこととなります。地域での高次脳機能障害支援セミナーや、サポーター養成講座などによって普及啓発をする機会を数年行っております。

これからも脳の障がいを持っても、地域の人々と隔たりなく、社会で生活していけるよう、地道にサポート活動を続けていくつもりです。

インクルーシブな社会をめざして　～支援者学習会～
コミュニケーションのとりにくい子どもや大人をどう支援するか　報告

発達障害をどうとらえるか

教育の場や職場・育児の現場では

ここ数年、「コミュニケーションのとりにくい子・人（大人）」「一緒に仕事がしづらい人」「育てにくい子」という言葉を多く聞くようになりました。周囲からは「みんなと違う変わり者」から「発達障害／自閉症スペクトラム障害ではないか」と言われる人までさまざまで、周りから排除されてしまうことがあるようです。

「脳」の側面から考える

人間の脳の中心部では、外からの情報を総合的に捉え行動を起こすために信号を送ります。脳は未確定な部分が多く「嗅覚・視覚・基本行動・体内の反応」という情報が同じであっても、個人によって処理機能が違うため、人によって言葉や行動が変わります。その処理の違いを認めず一つのことが正しいと決めてしまうと「障がい」につながります。

時代とともに変わる「障がい」

モノを作る社会ではモノを作れない人は排除されました。現代ではイメージが先行し（感覚の同一性を求めるため）、「肌合い・イメージ・人気」などで排除される傾向にあります。本当の理由もわからないまま差別する側とされる側が現れるようになり、多動や注意力がない、行動が一緒にできるかどうか等、みんなの期待する学校教育のイメージから外れた時にも起こります。

見方が変われば・・・

満足がいかない作品は、他者からはどんなに価値が認められようと壊してしまう陶芸家がいます。これは価値観の違いであり、強いこだわりは、見方が変われば納得いく作品を追求するという強みになっています。同様に、コミュニティー障害を理由に誰かを排除しようとしている人がいる場合、排除しようとする人のほうが、コミュニティー障害なのかもしれません。これからはリアルな人間関係を大切にし、「面白いヤツだな」と見方を変えると、互いに気づきが生まれ、人や社会が変わってくるのではないでしょうか。

私たちの身の回りだけでも、赤ちゃんから高齢者、障がいや病気を抱えている人、ひとりで子育てしている人、失業中の人、貧困に苦しんでいる人、外国人・・・さまざまな状況の人がいます。生活者ネットワークは、いかなる状況であっても人が社会から排除されることなく、お互いに尊重しながら共に暮らしていける地域＝インクルーシブ（包み込むようなという意味の英語）な地域をめざします。

「TPOをわきまえずに騒ぐ」「動き回り、じっとしていられない」「限定されたものに固執する」「感情の共有ができない」「通常の会話のやり取りができない」など、みんなの期待するクラスのイメージから外れた時にも線引きが起こります。
講師石川憲彦氏と参加者

講師：児童精神科医 石川憲彦氏（林試の森クリニック院長）

1946年生まれ　東京大学医学部卒業し、1987年まで東大病院を中心とした小児科臨床、とりわけ障害児医療に携わり、共生・共学の運動に関与。患者らが成人に達し、東大病院精神科に移る。その後、マルタ大学、静岡大学保健管理センターを経て現在に至る。

出版図書：「書評：立岩真也「自閉症連続体の時代」「精神医療」「心の病はこうしてつくられる―児童青年精神医学の深淵から」など多数

インフォメーション information

お申し込み・お問い合わせ
目黒ネット　広吉敦子事務所まで
TEL/FAX: 03-3791-8069
E-mail: meguronet@m2.dion.ne.jp

お家洗濯とクリーニングを上手に使い分けるコツ!

～衣替えの季節ですね。お気に入りの服をクリーニングに出す?
それとも手洗いする?と迷ったら、今年はいつもと違う
お洗濯で服にもお肌にもやさしい洗濯をしませんか?～

- 日時：9月11日(日)14時～（13時半～ 受付開始）
- 場所：鷹番住区センター　第4会議室
- 定員：20名
- 参加費：300円
- 締め切り：9月9日(金)
- 講師：戸田 圭介(クリーニングファースト代表)

参加希望の方は、クリーニングに関しての疑問や聞きたいことを考えてきてください。

参議院議員選挙報告

7月10日（日）、参議院議員選挙が終了しました。目黒・生活者ネットワークは「いのちと平和」を基本政策に市民派として参議院比例区に挑戦した大河原まさこさんを応援しましたが、71,398票獲得（18位／22人中）したものの当選には至りませんでした。

昨年来の安保法制反対の動きの中、国全体で新しい層の政治参加が見られました。また、身近な地域でも改憲への問題意識が広がっていることを実感できたにも関わらず、選挙結果に繋がらなかったのは残念です。

参議院の構成は政権与党が2/3を占めることになり、改憲への動きが心配されますが、今後もあきらめずに地域から声を出し続けることが必要です。

生活者ネットワークは、これからも「政治は生活の道具」ととらえ、これまで培った人とのつながりを大切にし、地域にネットワークを広げていきます。

カンパのお願い

活動を支えるためにカンパでのご支援をよろしくお願いします。同封の振り込み用紙をご利用下さい。1,000円以上のカンパを下さったかたには、東京の情報を載せた月1回発行の「生活者通信」(1,000円／年)を2017年8月までお届けします。

生活者ネットワークの3つのルール
①最長3期で交代。議員を職業化、特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。
②議員報酬は市民の政治活動資金に活かし、お金の流れは公開します。
③選挙はカンパとボランティアで行います。

【編集後記】今年の夏は水不足と猛暑の予想。人間の英知をもっても、天候を思い通りにはできません。しかし、湯船のお湯を熱いうちに下水に流さないことで地面の温度上昇をやわらげることができます。工夫こそが人間の知恵なのですね。